

第3回放射光戦略ワーキンググループミーティング 議事要録

日時：2008年2月22日（金）13時30分～16時20分

場所：4号館2階輪講室

出席者：外部委員（朝倉，雨宮，尾嶋，坂田，高田，三木）

内部委員（若槻，春日，野村，河田），下村所長

書記（宇佐美，山崎）

オブザーバー（那須，伊藤）

- 議題：1. AOE および Three-Tier System for 5～10 years について
2. 運転状況およびビームライン統廃合の進捗状況，NE5A の閉鎖について
 3. KEK ロードマップと KEK 組織改革について
 4. 物構研の組織改革，加速器研究施設と放射光源研究系の融合について
 5. 人事異動に関する戦略について
 6. PF-ISAC の準備状況および今後の進め方について

配付資料：「運転とビームライン統廃合」「KEK Roadmap 2009-2013 (2007.12.13 ver.)」「KEK 組織変更案（所長案）」「KEK 組織変更案（素核研・物構研案）」「物構研組織 現状と改定案」「PF-ISAC 分科会および本会議 Agenda」

1. AOE および Three-Tier System について（若槻）

- Areas of Excellence の各テーマの詳細（最終版ではないが準備状況として報告）
- Light source and Beamline Development（技術開発）
- Facility Operation（施設運営）
 - 他施設との collaboration
 - ビームライン統廃合：60 ステーションのうち 28 については統廃合の対象。
 - PRT システム→外部の大学・研究所のグループがビームラインを運営するシステム。
現在の協力ビームライン，所外ビームラインの他，教育用ビームライン（東工大，弘前大）の計画が議論されている。

主として PRT システム（特に教育用ビームライン）に対する質疑応答，議論が行われた。また，現状の所外ビームライン，協力ビームラインの制度を整理し契約期間や評価のシステムを確立すること，教育をキーワードにした（積極的な）戦略の可能性などの提案があった。

2. 運転状況およびビームライン統廃合の進捗状況，NE5A の閉鎖について（野村）

- ・ 今年度の運転状況：懇談会他の働きかけや「先端研究施設共用イノベーション事業」からの支出により、結果的にPFは昨年度を超えることができた。ARは昨年度に比べて減少。
- ・ 来年度：BL16のアンジュレータのインストールのためPFは4月は休止。ARは例年通り。
- ・ BL16：可変偏光アンジュレータのビームラインとして整備中。2006年に旧BL16A（X線構造物性）をBL3Aに移設。
- ・ BL1：ターゲットタンパクプロジェクトによりSGU（2009年夏に設置予定）の構造生物BLを整備。現1A,Bは8A,Bに移設。1Cは閉鎖。旧BL8は冬のシャットダウン中に撤去済。
- ・ AR-NE3：アステラスが出資したビームラインを整備。現NE3で行われてきた核共鳴は他の施設およびNE1で展開する。
- ・ AR-NE1：現在BL13Aで展開しているレーザー加熱高温高圧実験（現BL13A）と核共鳴を組み合わせた実験用に整備。現NE1A,Bは今年春に閉鎖，秋にかけて建設。BL-13は今後アンジュレータのビームラインとして整備。
- ・ AR-NE7(9)：大型プレスを使った高圧実験（現BL14C2），およびイメージングのステーションとして整備。現NE5A,Bは閉鎖。14C1はイメージング専用，14C2は分離型干渉計専用ステーションとして整備。NE5Aは，当初の予定ではNE3A建設後に移転の可能性を検討する予定であったが，作業工程を減らすためこのタイミングで進めることとした。

個々の統廃合の質疑応答の他，全体として，ディテールよりも基本指針が重要であり，UGや現場で働く人への説明においても基本指針を前面に出すべきという意見があった。これに対して，1. 中～高エネルギーをARで展開。2. PFの中長直線部に関しては低エネルギー領域を用いる分野できっちりとやる。3. 相乗りを解消して専用化しアウトプットをあげる。という基本方針が確認された。

3. KEKロードマップとKEK組織改革について（下村）

- ・ 機構改革：
 - 経営陣の変更：現在では理事と所長が兼務になっているが，それを原則分離したい。理事は経営に専念する。
 - 研究所組織の変更：今までの2研究所・2施設を4研究所にするというのが最初の機構長案。現状の主幹制度だけでなく，各研究所の組織に自由度を与える。また，横断的なプロジェクトを明確化する。
- ・ 素核研・物構研案：機構長案を受け，素核研と物構研の「6人委員会」でたたき台を作った（配布資料）。この案の要点は，

- 専任の理事を2人おく。機構長案は理事と所長・施設長の兼任も可としているが、6人委員会では体制としてすっきりしないので兼任不可という提案をした。その後の機構長との話し合いにより、現在は必ずしも兼任不可ではないという方向。
- 今の主幹会議に代えて、「機構会議」をおく。プロジェクトを推進する長、研究所の所長も参加して、KEK全体のサイエンスを方向づけるような（例えば予算など）議論を行う。ここは議論をする場であり、決定権は「拡大役員会」にある。
- ・ タイムスケジュール：機構長の任期が2008年度末までで、次の機構長の選出に間に合わせようとする、4月ごろの教育研究評議会にはかけたい。

素核研・物構研案の「機構会議」の位置づけについて議論があった。機構会議の意見が決定機関である拡大役員会に反映されることが非常に重要との意見が多数あった。そのためには機構会議の構成（人数、人選など）や議論の方法などを今後慎重に議論すべきであるという意見があった。また、専任理事を置くことにより、マネジメントの強化は期待できるが、理事と現場が離れることに対する懸念も出された。

4. 物構研の組織改革、加速器研究施設と放射光源研究系の融合について（下村）

- ・ 物構研の組織改革：現状は所長・副所長の下に5系。副所長をつくば／東海と二人おき、つくばは放射光関係、東海はJ-PARC関係を担当。放射光、中性子、ミュオンというハードウェアで分類した組織に加えて、研究組織として、構造生物学研究センターおよび新しく構造物性研究センターを置く。副所長を横に並べるバージョン（改定案2）もある。
- ・ この組織を提案している時に、加速器から「光源系を加速器にマージする」提案があった。今後 ERL を推進して行くにあたって、より効率的に推進できるという提案。この件を加速器と議論するタスクフォースを立ち上げる準備中。

光源系と加速器研究施設のマージに関しては活発な意見交換が行われたが、ERL 推進にとっては光源系と加速器がマージしたほうが有利であることはほぼ間違いないこと、したがってマージするのであれば加速器研究系に「ERL 推進」を担保してもらうことが前提となるべきという強い意見があった。一方で、ERL 推進がプライオリティになると現有の PF, PF-AR の運転のプライオリティが低くなり現在の運転レベルが維持できない可能性、PF 構成員の約3割がいなくなることなどに対する懸念が出された。

5. 人事異動に関する戦略について（若槻）

- 4/1 で松下教授の退職および4名の転出により、5つのポストが空く。このうち3つは、
 - 構造物性センターのセンター長
 - 構造物性の准教授
 - 先端技術・基盤整備・安全の准教授

構造物性センターのセンター長，先基安の准教授に関しては早急に進めたい。准教授はまだ議論中。PF 内部での議論がうまくいけば3月21日の運営会議にかけたい。

6. PF-ISAC の準備状況および今後の進め方について（若槻）

- 2/27, 28 に電子物性分科会, 2/29 に医学応用分科会, 3/4, 5 に ISAC。